

こども発達支援かのん

令和6年 12月 20日
(別添資料1)

事業所名 支援プログラム 作成日

法人(事業所)理念		児童、その家族、職員等、関わる全ての身近な人達を幸せにすることで、社会貢献に繋げていく。					
支援方針		それぞれの子どもに合わせた最適な療育を提供する為に、その子にとっての最善の環境、最善の療育が何かを職員が一丸となって考えていく。様々な体験を積み重ねる中で自己肯定感を高め、得意なことや興味の幅を広げ自らの可能性に気づき自信を持って生きていけるようになってもらう。					
営業時間		9時	0分	18時	0分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容							
本人 支援	健康・生活	保護者からの聞き取り及び来所時の児童の挨拶や顔色などから、いつもと変わった様子がないかを判断し、体調面と精神面の両方の視点から健康かどうかの配慮及び観察を行う。排泄や衣服の着脱など身の回りに関する事の自立の促しと訓練を行う。当事業所への通所を毎日の生活ルーティンの中に無理なく組み込むことが出来るよう、本人の体力や意欲等から配慮した日々の活動カリキュラムを組む。					
	運動・感覚	トランポリン、平均台、とび箱、鉄棒等の運動器具を活用し、児童の運動機能レベルに配慮しながらサーキット運動を行う。体幹トレーニングや音楽に合わせて体を動かすことを通して、手足の協調運動や体力及び体幹機能の向上、姿勢の改善を目指す。					
	認知・行動	始まりの会で、天気、日付、一日のタイムスケジュールを確認することで、数や時間の認知形成を行う。小集団での活動を通して、適切な行動形成を促す。認知の偏りが見られる際にはSSTカード等を活用した支援を行う。					
	言語コミュニケーション	言語聴覚士による個別療育でことばの訓練を行う。終わりの会で、その日1日の楽しかったことや頑張った事を発表してもらい、自分の言葉で発言する機会を作る。小集団での他児や指導員との関わりの中で、自分の気持ちを伝えることの大切さや、それと同時に相手の気持ちを聞くことの大切さに気づき、伝える方法や伝え方を学ぶ機会を提供する。(具体的活動・ルールのあるゲーム・お出かけ・クッキング・自由遊び等)					
人間関係社会性	指導員との信頼関係を構築し、安心して通所できるようになることを基本とした上で、他者への思いやりや配慮、他者の気持ちを考える事が出来るように適切な声かけを行う。他児とのケンカやトラブルの際は社会性を学ぶチャンスであるため、指導員はタイミングを逃さず支援が行えるよう配慮する。(具体的活動・ルールのある集団活動・外出活動・自由遊び等)						
家族支援		連絡帳や送迎時の会話で、児童の情報の共有を行う。保護者が子育ての悩みを打ち明けやすいよう、連絡帳に保護者からの返信欄を設ける。児童の兄妹児との関係にも配慮し、保護者から相談があった場合には適切な助言を行う。適宜、保護者との面談を行う。		移行支援		進学やライフステージの切り替えを見据え、必要に応じて関係機関と児童に関する情報の共有や、先を見据えての児童への訓練や支援を行う。	
地域支援・地域連携		幼稚園、保育園、小学校など関係機関との情報共有を行い、連携しながら総合的に児童の支援を行う。		職員の質の向上		社内研修(ST療育について、SSTについて、安全管理等)及び、外部研修の定期的な実施。	
主な行事等		・畑作業・収穫、調理実習・節分・ひなまつり・こどもの日・夏休みのおでかけイベント・誕生日会・クリスマス会・冬休みのおでかけイベントなど					